

図書館を経由して開く世界

医学部 小児科学講座 診療助教

ワタナベ アツシ
渡邊 敦

このところ、MyLibrary経由で過去の貴重な論文を入手していただくことが多々ありました。近年はインターネットの普及に加えてオープンアクセスの考え方が広まり、無料で全文が手に入る文献もありますが、それでもアクセスが制限されている論文も多いのです。著作権など難しい問題があるのでしょうか。あるいは、古すぎて電子化されていないのかもしれませんが。いずれにしても、きちんと全文を読みたいと思ったとき、附属図書館に学外文献複写を依頼します。文献の到着まで、ほんのちょっと待つこと。デジタルデータではなく、紙媒体で論文が届くこと。そして「どうぞお使いください」とメモが添えられていたりすること。ネットにがんじがらめにされた世界にあって、こうしたことに新鮮なヒトの暖かみを感じてしまう今日このごろです。十分に検索しきれなくて「ダウンロード、できましたよ」とか「図書館に雑誌がありましたよ」などと司書さんに指摘され、大変恥ずかしい思いをすることも往々にしてあります。しかし、過去の資料から新たな気付きがあった時とは、少し大げさかもしれませんが、科学の世界が広がる瞬間なのではないでしょうか。図書館というと、ともすれば建物の中に存在する本で構成されているような錯覚に陥りますが、しかし実は、他施設との連携による巨大な知の世界の入り口にもなっているんだと感じています。敬意と感謝をこめて。



学生生活に欠かせない場所

大学院医工農学総合教育部
メカトロニクス工学コース1年
コイケ ユウ
小池 祐

山梨大学における私の学生生活において、附属図書館は様々な面から支えてくれる、無くてはならない存在です。入学当初は勉強のために集う場所として、研究室に配属されてからは図書館本来の姿で支えてくれています。

恥ずかしながら学部1年次の私は極めて成績の悪い学生でした。おかげで2年次以降に再履修のしわ寄せがきてしまい、友人たちにもまして努力をしなければならなくなりました。当時の授業は専ら定期試験の点数を重視するものだったので、授業が終わるや否や友人と図書館に集い、閉館の時間ギリギリまで試験対策をしたものでした。

その甲斐もあり、何とか4年次には志望する研究室に所属でき、このころからは研究やレポート課題の資料や文献を求める場として図書館を活用するようになりました。図書検索システムをはじめ、図書館の様々な機能にも触れる機会が増え、私が思うよりはるかに学生のことを考えてくれているのだと感じました。たとえば、もはや学生には必要不可欠なスマートフォンの充電器や、電子黒板、タブレット端末の貸し出しまで行っていることをご存知でしょうか。図書館は学生にとってとても居心地の良い場所となっています。

このように学生にとって絶好の学びの場である図書館ですが、私の周りではあまり良さが認知されていないように感じます。もっと図書館のサービスについて知られるような機会があれば、学生の図書館利用はもっと有意義になると思います。